

令和 7 年度

第 2 回森林環境保全基金運営委員会

～令和 7 年度（中間）森林環境税活用事業評価シート～

高知県林業環境政策課

目次

1	山の学習支援事業費補助金(林業環境政策課)	P01
2	森林環境学習等推進事業委託料(林業環境政策課)	P02
3	環境学習推進事業(生涯学習課)	P03
4	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	P04
5	こうち山の日推進事業費補助金(林業環境政策課)	P05
6	森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金(林業環境政策課)	P06
7	林業大学校(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課)	P07
8	森林環境情報誌作成等委託料(林業環境政策課)	P08
9	森林環境学習フェア開催委託料(林業環境政策課)	P09
10	座談会等開催事業委託料(林業環境政策課)	P10
11	緑化促進事業費補助金(林業環境政策課)	P11
12	県立甫喜ヶ峰森林公園展示林整備事業(林業環境政策課)	P12
13	全国植樹祭実行委員会負担金(林業環境政策課)	P13
14	高知の森と水・流域合同フォーラム開催委託料(自然共生課)	P14
16	木の香るまちづくり推進事業費補助金(木材産業振興課)	P15
17-1	指定管理鳥獣捕獲等事業委託料(中山間地域対策課)	P16
17-2	指定管理鳥獣捕獲等事業計画策定調査委託料(中山間地域対策課)	P17
17-3	森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料(中山間地域対策課)	P18
17-4	シカ個体数調査委託料(中山間地域対策課)	P19
18	希少野生植物食害対策事業(自然共生課)	P20
19	森林資源再生支援事業費補助金(木材増産推進課)	P21

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	1	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境学習
	事業名	山の学習支援事業費補助金			所管課	林業環境政策課

事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
②	総事業費(千円)	19,413	21,773	22,173	29,449	41,602
	財源内訳	19,413	21,773	22,173	29,449	41,602
	森林環境税					
	その他					

③	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等において、年間を通して森林環境学習を実施する学校等に対し補助を行う。 森林環境学習の講師を派遣する森林ボランティア団体等に対し補助を行う。 市町村や民間団体等が実施する宿泊を伴う自然体験活動に対し補助を行う。 木育指導員として活動することのできる人材を養成する。
---	------	--

④	事業目的	本県の豊かな森林環境を県民に気付かせ、その体験活動を通して生きる力を育むための森林環境学習及び木育の推進の担い手となる指導員を養成する。
---	------	--

事業内容・実施方法など	
⑤	<p>○事業区分</p> <p>A：(公社)高知県森と緑の会を通じた間接補助事業により実施</p> <p>①山の学習支援事業</p> <p>「総合的な学習の時間」等において年間を通して森林環境学習を実施する学校に対し、必要経費を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 交付対象：県内の小・中・高等学校など 補助対象経費：賃金、報償費、旅費、役員費、需用費、使用料及び賃借料など 補助金額：22万円以内～110万円以内(対象生徒数によって区分) <p>②山の一日先生を派遣する事業</p> <p>森林環境学習を行う指導者を派遣する事業に対し、必要経費を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 交付対象：市町村、県内に事務所を置く法人若しくは任意団体又は個人など 補助対象経費：同上 補助金額：75万円以内 <p>③宿泊型学習支援事業(学校行事)</p> <p>学校行事として実施する森林に関する学習と体験活動を含む2泊3日以上の自然体験型学習を実施する学校に対し、必要経費を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 交付対象：県内の小・中・高等学校など 補助対象経費：賃金、報償費、旅費、役員費、需用費、使用料及び賃借料など 補助金額：20万円以内～40万円以内(対象生徒数によって区分) <p>④宿泊型学習支援事業(学校行事以外)</p> <p>概ね高校生以下の児童生徒を対象とした森林に関する学習と体験活動を含む学校行事以外の1泊2日以上の自然体験型学習を実施する団体に対し、必要経費を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 交付対象：市町村、県内に事務所を置くNPO法人、社会福祉法人、青少年教育団体など 補助対象経費：賃金、報償費、旅費、役員費、需用費、使用料及び賃借料など 補助金額：25万円以内～45万円以内(対象児童生徒数によって区分) <p>⑤宿泊型学習利用促進事業(学校行事)</p> <p>宿泊型学習支援事業(学校行事)において、就学援助等を受けている児童生徒の食費を補助する</p> <p>B：木育指導員を養成する事業</p> <p>木育推進の担い手となる指導員養成のための必要経費を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 交付対象：高知県森と緑の会 補助対象経費：賃金、報償費、旅費、役員費、需用費、使用料及び賃借料など 補助率：10/10以内

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
⑥	山の学習支援事業参加者数(実施校数)	6,000人(60校)	6,500人(82校)	6,500人(82校)	6,300人(92校)	7,000人(89校)
		R3～R6実績値 R7中間値	5,386人(64校)	6,569人(81校)	6,274人(88校)	7,003人(89校)
	山の一日先生派遣事業参加者数(事業実施回数)	5,000人(100回)	5,500人(100回)	5,500人(146回)	7,030人(170回)	7,500人(160回)
		R3～R6実績値 R7中間値	4,848人(101回)	5,516人(139回)	7,009人(159回)	7,882人(170回)
	宿泊型学習支援事業参加者数(事業実施回数)	—	—	—	170人(8回)	200人(15回)
		R3～R6実績値 R7中間値	—	—	241人(11回)	210人(10回)
	木育指導員養成事業参加者数(事業実施回数)	—	—	120人(4回)	のべ100人(21回)	のべ100人(20回)
		R3～R6実績値 R7中間値	—	—	のべ98人(21回)	のべ79人(16回)

進捗状況・成果(9月末時点)	
<ul style="list-style-type: none"> ①山の学習支援…R6年度より実施校数が2校、参加者児童・生徒数が約500人増となる見込。 ②山の一日先生派遣…10団体から事業活用の申請があった。 ③、④宿泊型学習支援…要望時より申請団体数が減少しているが、参加者数は目標値の200人を達成できる見込。 ⑤木育指導員養成…基礎講座2回を開催済み。今後は、ステップアップ講座2回と現場研修を実施予定。 	

⑦ 下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
<p>〈次年度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ③宿泊型学習支援事業(学校行事)について、2泊3日以上では授業時間が確保できず活用しづらいとの意見があることから、1泊2日以上とすることで活用の活発化を図る。 森や自然を活用した幼児教育・保育に関するアンケート調査結果を踏まえ、①山の学習支援事業の対象範囲を幼稚園、保育所(3才児以上)まで拡大する。 	

⑧ 森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
<ul style="list-style-type: none"> 木育指導員養成事業については、講座修了者の役割や目的を明確化する必要がある。 親世代が山野に親しんだ経験に乏しい層へと移行しており、これまで家庭環境で補われてきた「森林内での過ごし方(斜面の歩き方、生息動物の知識や活用方法など)」や、「野外での怪我に対する応急処置」も、「山の学習」に含める必要が生じている。状況の変化に応じた指導者の育成・支援について考慮いただきたい。 山の一日先生派遣事業について、木工や自然物を使った工作に加え、子どもたちの多様な体験を支え、その学びに対応する山の一日先生の募集が必要。 木育指導員養成事業について、終了する森林活用指導員養成講座の内容を引き継ぎ、自然体験に関わる指導員養成事業を一本化することが望ましい。また、子どもの学びの多様なニーズ(森林学習、環境整備等)に応えられる専門家を養成すべき。指導員が専門性を形成していくための知識や技能を体系立てたカリキュラムの編成も必要。 木育指導員が自立して活用できるよう、養成講座修了後に修了者が行う実践的なスキルを身に付けるための活動費(人件費)について、事業予算に計上してはどうか。 	

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	2	大区分	こうちの森で人づくり事業	小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境学習
	事業名	森林環境学習等推進事業委託料			所管課	林業環境政策課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		2,704	3,190	8,650	8,102	11,407
	財源内訳	森林環境税	2,704	3,190	8,650	8,102	11,407
その他							

③	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 山の学習支援事業に係るプログラム作成及び実施の支援 森林保全ボランティア団体の活動と団体ネットワーク強化の支援 公式ホームページ「森・ヒト・こうち応援ネット」(応援ネット)の保守管理
---	------	---

④	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 山の学習支援事業の活用促進のため、小中学校等の森林環境学習プログラム作成と実施の支援を行うとともに、同事業の実施のために必要となる森林保全ボランティア活動の活性化に向けて、森林保全ボランティア団体の活動支援やネットワーク強化等を実施する。 「応援ネット」に県民参加の森づくり活動に関する情報を一元的に掲載し、県民のボランティア参加の増加に繋げる。
---	------	--

⑤		<p>事業内容・実施方法など</p> <p>【森林環境学習等推進事業委託業務】</p> <p>(1) 山の学習支援事業に係るプログラム作成と実施の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の市町村教育委員会及び小中学校、幼稚園、保育所等を訪問し、山の学習支援事業の活用促進に向けた広報活動や働きかけを実施 山の学習支援事業活用ハンドブック「山ナビ」等を活用した学校等のプログラム作成を支援 <p>(2) ボランティア団体に係る活動及びネットワーク強化の支援</p> <p>① 広く県民の参加を募る森林保全ボランティア活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 賞金やボランティア保険、保護具購入費など経費の助成 「応援ネット」でのボランティア活動の広報 <p>② 「応援ネット」の管理及び広報の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 「応援ネット」の管理(事務局だよりの掲載、問い合わせ対応など) 森林環境学習フェアにおいて、ボランティア団体の活動紹介や森林環境税活用事業の広報を実施 <p>③ ボランティア団体のネットワーク強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア団体に働きかけ、こうち山の日ボランティアネットワークへの参加を促進 ボランティア団体同士の交流活動を実施し、団体間のつながりを強化 ボランティア団体に対し山の学習支援事業の講師等の協力を依頼 <p>※(1),(2)委託先: 高知県森と緑の会 事業費(R7予算): 11,107千円</p> <p>【インターネットホームページ保守管理委託業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「応援ネット」の保守管理実施 <p>※委託先: アークデザイン研究所(株) 事業費(R7予算): 300千円</p>
---	--	---

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
山の学習支援事業の次年度の新規活用校数	目標値	-	-	10校	10校	10校
	R3~R6実績値 R7中間値	-	-	12校	8校	10校(R7未見込)
ボランティアネットワークへの新規加入団体数	目標値	-	-	10団体	10団体	10団体
	R3~R6実績値 R7中間値	-	-	9団体	7団体	0団体
県民参加人数	目標値	450人	470人	1,000人	1,200人	1,200人
	R3~R6実績値 R7中間値	595人	955人	1,150人	909人	372人

⑥		<p>進捗状況・成果(9月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校、市町村教育委員会等への訪問を51回、森林保全ボランティア団体等への訪問を15回実施。 山の学習支援事業の新規活用校26校に対し、プログラム提案や講師紹介、計画書作成支援など学習プログラムの作成支援を実施。 ボランティアネットワークに2団体が加入を検討中。 R7年5月にこうち山の日ボランティアネットワーク総会を開催。 R8年3月にこうち山の日ボランティアネットワーク交流事業を森林研修センター情報交流館において実施予定。
---	--	--

⑦		<p>下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針</p> <p><下半期></p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアネットワークの新規加入団体が0件となっている。上半期に市町村や森林組合を訪問しており、そこで情報を得た団体や国の交付金、県の補助事業活用団体等を訪問し、ボランティア団体の掘り起こしを行う。 <p><次年度></p> <ul style="list-style-type: none"> R8年度において、本事業のうち(1)の山の学習支援事業の活用校増に係る内容については山の学習支援事業に統合し、(2)のボランティア支援に係る内容についてはこうち山の日推進事業に統合することにより、事業の整理と事務の効率化を図る。
---	--	---

⑧		<p>森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 共働きの増加や定年延長などの働き方の変化により、潜在的なボランティア活動者が減少しており、従来の自主活動支援だけではボランティアの減少が懸念される。潜在的なボランティア活動者の条件に配慮した支援の見直しや、ボランティア以外の活動者の検討が必要となる。 新規参入団体の増加や県民のボランティア参加者の増加が今後の重要な焦点となる。
---	--	---

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	3	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境学習
	事業名	環境学習推進事業			所管課	生涯学習課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		2,062	2,028	2,144	345	717
	財源内訳	森林環境税	2,062	2,028	2,144	345	717
その他							

③	事業概要	地域の森林等、豊かな自然環境を活用し、保幼小中高の児童生徒を対象に体験を中心とした森林環境教育を実施することができる人材の育成研修を実施
---	------	--

④	事業目的	森林活用指導者を育成することで、学校林等を活用している（活用しようとしている）学校への除間伐作業補助の支援や、保育所・幼稚園の園児や小・中・高の児童生徒を対象に体験を中心とした森林環境教育（森林保全に関する知識、木工体験、動植物の観察、植林等）を推進する
---	------	---

⑤	事業内容・実施方法など	
	<p>(1) 森林活用指導者育成研修（年4回実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○募集案内・研修概要 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村及び市町村教育委員会、青少年教育施設、大学等へ受講者の募集案内を送付 ・森林保全に関する知識・技能の習得、森林や自然環境を活用した体験活動、活動する場所（森林）の環境整備ができる技能及び活動場所の安全管理能力に関する研修の実施 ○開催日程・場所・内容 <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年9月27日（土） 場所：高知県立森林研修センター情報交流館 主な内容：多様な児童生徒とのコミュニケーションのあり方、里山整備の基礎講座 ・令和7年10月25日（土） 場所：若草幼稚園すくすくの森 主な内容：里山整備の体験（実践） ・令和7年11月29日（土） 場所：高知県立森林研修センター情報交流館 主な内容：高知県の森林の現状、森林環境教育の実践、体験活動における危機管理、木工の体験活動 ・令和8年2月24日（火）（雨天延期時：2月26日（木）） 場所：四万十町立東又小学校 主な内容：研修修了者の実践発表等、学校林を活用した児童との活動 	
	<p>(2) 森林活用指導者資質向上研修（フォローアップ研修）（年1回実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○募集案内・研修概要 <ul style="list-style-type: none"> ・育成研修の修了者を対象に開催 ・実践に生かせる指導や企画方法を学び、指導者のスキルアップを図る ○開催日程・内容 <ul style="list-style-type: none"> ・調整中 	

⑥	成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
	森林活用指導者育成研修 (受講者数)	目標値	—	—	—	15人	15人
		R3～R6実績値	12人	20人	11人	13人	14人
		R7中間値					
	森林活用指導者育成研修 (修了者数)	目標値	—	—	—	7人	7人
		R3～R6実績値	4人	8人	4人	4人	(未確定)
R7中間値							
森林活用指導者資質向上 研修(受講者数)	目標値	—	—	—	12人	10人	
	R3～R6実績値	—	—	—	1人	(未実施)	
	R7中間値						

進捗状況・成果(9月末時点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・育成研修については、これまでの開催状況も踏まえ、雨天時に開催できるよう内容を見直し、研修を計画した。 ・市町村及び市町村教育委員会、青少年教育施設、大学等へ募集案内を実施。新たにチラシを作成し、募集案内とともに配布したが、受講者数(申込数)は目標に届かなかった。 ・研修修了者を対象とした研修は、実施に向けて調整中である。 ・市町村訪問時に研修修了者の情報提供を実施している。 	

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針
	<p><次年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の事業開始から5年が経過し、育成研修は令和7年度をもって終了する予定。 ・令和8年度以降は、育成した修了者の活動場所の拡大に向けて、関係機関への情報提供を実施する予定。

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組み成果（活動に用いた資料や活動のノウハウ）を引継ぎ、今後に生かしていただきたい。 ・これまでの養成講座を通じて意欲的な人材が掘り起こされた一方、受講者が自立して活動するには、以下のハードルがある。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動拠点の不足と、拠点所有者との連携・許可の取得 ・経験不足による具体的な活動計画・イメージの欠如 ・自然体験イベント開催のノウハウ不足 ・活動立ち上げに費やす時間の不足 ・活動が収入に結びつかないという経済的課題 <p>これらの課題は「木育指導員」の自立にも共通する問題であるが、このハードルの解決策として、森林を活用するモデル施設の選定を提案する。カリキュラムの融通が利く「小規模校」や「保育現場」を選定先として検討してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修修了者への継続的な支援が必要。

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	4	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境学習
	事業名	高校生森林環境理解事業			所管課	高等学校課

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	933	1,147	1,079	1,586	2,053
	財源内訳	森林環境税	933	1,147	1,079	1,586
その他		0	0	0	0	0

③	事業概要	高校の授業において、河川の水質調査や森林生態系のモニタリング、間伐材利用、森林環境の維持・管理など森林環境保全に関する実践的な活動に取り組む。
---	------	---

④	事業目的	河川の水質調査や間伐材利用等の実践的な活動を通じて、森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。
---	------	---

⑤		<p>事業内容・実施方法など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での授業や現地でのフィールドワーク等 ・学校演習林を利用した、森林資源の活用と適切な森林管理 <p>実施校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十高等学校 3年間を通じた、自然環境に関する課題についての研修やフィールドワークを行い、自然環境保全や環境問題について考え実践する力を養う ・高知北高等学校 高知の植生や森林資源の活用・歴史について学習し、将来の森林資源活用や自然環境保全に取り組む姿勢を育成する ・幡多農業高等学校 学校演習林の利用や森林組合等の視察・研修を通し、木材の有効活用と環境保全の実践学習を実施する ・窪川高等学校 地元の森林組合等と連携し、森林資源活用や環境保全に対して自主的・実践的にいける力を養う ・嶺北高等学校 地元林業事業所や教育の森を活用し、嶺北地域の産業について考えるとともに、森林のもつ多面的機能の知識・技術取得を図る ・高知農業高等学校 関係機関と連携し、持続可能な森林のあり方や地域課題の解決について考え、実践的な力を養う
---	--	--

⑥	成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
	校内・校外学習(フィールドワーク等)人数	目標値	-	-	-	796人	1,150人
		R3~R6実績値 R7中間値	493人	600人	795人	1,146人	192人
	校内・校外学習(フィールドワーク等)回数	目標値	55回	53回	76回	81回	98回
R3~R6実績値 R7中間値		63回	97回	80回	96回	13回	

⑥		<p>進捗状況・成果(9月末時点)</p> <p>各校においてフィールドワークや体験的な活動を通じて、森林環境に対する理解や環境保全につなげるための実践的な学習が展開されている。9月末時点では活動が未実施の学校が数校あるため、各関係機関と連携しながら、多様な学びの場を提供できるよう有効に活用していく。(活動例) 植生調査、防災植物教室、四万十川流域調査、桜の枝木ストラップPR活動等、国有林視察、牧野植物園研修、高知の生物について講義など</p>
---	--	---

⑦		<p>下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針</p> <p>〈下半期・次年度〉 フィールドワークや調査などの体験的な学習を取り入れたり、森林資源の有効活用をテーマにしたプログラムを導入したりするなど、事業内容の改善を図り、生徒が実践的・主体的な実習・活動を通じて、より深く森林環境保全について学ぶ機会を提供し、実績数を維持していくことを目指す。 今年度からは新たに高知農業高校が本事業に参加している。各校の特色を活かした森林環境学習が展開できるよう関係機関と連携を取りながら、それぞれの学校のニーズに合わせたプログラムの企画・実施を支援していく。</p>
---	--	--

⑧		<p>森林環境保全基金運営委員会からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生SDGsフォーラムでの活動紹介は、普及・発信の面で評価できる。発表の際は、森林環境税の活用事業であることが分かるようにしていただきたい。高校生にとって、税の活用を意識するきっかけになる。 ・学校林等の活用の中で、防災対策として避難所となる近郊の山の整備(路網整備)や木材利用(薪作り、簡易キャンプサイト整備など)、山野草の採取・調理といった取り組みも推奨される。 ・生徒にどのような学びがあったのかという質的な評価があると良い。また、各学校同士で取組内容の発表や意見交換を行う機会があれば、生徒の刺激となり良いと思う。 ・森林環境学習をうまく取り入れたカリキュラムとなっており、将来的に森林環境保全を支援する人材に結びつくと期待できる。
---	--	--

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	6	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森や山に対する県民の主体的な活動
	事業名	森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金			所管課	林業環境政策課

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	6,268	5,260	4,628	4,195	5,176
	財源内訳	森林環境税	6,268	5,260	4,628	4,195
		その他				

③	事業概要	里山林の保全管理や資源を利用する活動を支援する、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金に上乗せ補助を行う。（（公社）高知県森と緑の会を通じた間接補助により活動を支援。）
---	------	--

④	事業目的	地域住民が森林所有者、地域外関係者等と協力して実施する里山林をはじめとする森林の保全管理及び山村地域の活性化に資する取組を促進。
---	------	--

事業内容・実施方法など

○県・市町村は、国の（公社）高知県森と緑の会への交付金額の各1/6見合いの額を補助。
同会は、これらを原資として、地域の活動組織に補助。

○事業区分
（1）メインメニュー
【地域活動型】
（森林資源活用）
地域住民等が連携した、雑草木の刈払い・集積・処理等の里山林の整備と森林資源の活用。
（1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,500円/ha 以内）
（竹林資源活用）
地域住民等が連携した、雑草木、竹の伐採・搬出・処理の竹林整備等と森林資源の活用。
（1年目 55,000円/ha、2年目 50,500円/ha、3年目 46,000円/ha 以内）

【複業実践型】
雑草木、間伐木等の伐採・運搬・処理等本格的な森林資源の活用の実践。
（1年目 31,500円/ha、2年目 29,000円/ha、3年目 27,000円/ha 以内）

（2）追加メニュー（取組内容に合わせて追加メニューの付帯が可能。）
【機能強化】
歩道・作業道の作設・改修、鳥獣害防止柵の設置・補修等。（100円/m以内）
【関係人口創出・維持】
地域外関係者との活動内容の調整、地域外関係者受入のための環境整備、これらの活動に必要な森林調査・見回り等（8,000円/年以内）
【活動推進費】
現地の林況調査、活動計画の実施のための話し合い、研修等。（6,000円以内）

【補助の仕組み】

```

graph TD
    A[国] -- 交付 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会(地域協議会)]
    C[高知県] -- 補 --> B
    D[市町村] -- 補助 --> B
    B -- 補 --> E[活動組織]
    
```

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
a 環境保全タイプ(ha) (R7～森林資源活用)	目標値	—	—	—	92.5ha	120ha
	R3～R6実績値 R7中間値	148.8ha	120.2ha	89.9ha	72.5ha	98.4ha(R7未見込)
b 竹林整備タイプ(ha) (R7～竹林資源活用)	目標値	—	—	—	34.5ha	40ha
	R3～R6実績値 R7中間値	27.1ha	22.0ha	29.2ha	32.7ha	32.3ha(R7未見込)
c 資源利用タイプ(ha) (R7～複業実践型)	目標値	—	—	—	25.8ha	1ha
	R3～R6実績値 R7中間値	54.1ha	38.7ha	25.8ha	21.9ha	0ha
a+b+c 森林整備面積(ha)	目標値	360.0ha	254.0ha	200.0ha	152.8ha	161ha
	R3～R6実績値 R7中間値	230.0ha	180.9ha	144.9ha	127.1ha	130.7ha(R7未見込)

進捗状況・成果(9月末時点)

・27団体から交付申請があり、事業を活用した森林整備や森林資源の活用が進められている。

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針 〈下半期〉 ・これまで事業を行ってきた活動団体が高齢化の影響等で活動をやめたこと等により、整備面積は減少傾向にある。また、c 複業実践型の支援メニューの活用がないため、高知県森と緑の会と連携して情報発信を行い、集落活動センター等の新たな団体を含め活動組織の掘り起こしを進めていく。
---	--

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など) ・地域の森林資源の利活用が、中山間地域における生活利便性の向上に繋がり、自助・共助の活動を促すことで活動者の確保に繋がるということを意識した事業普及が必要である。 ・高齢化による事業縮小の流れは自然体では改善されないため、対策を考える必要がある。
---	---

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	7	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森や山に対する県民の主体的な活動
	事業名	林業大学校（短期課程）研修業務等委託料			所管課	森づくり推進課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		568	637	652	650	618
	財源内訳	森林環境税	568	620	650	647	618
その他		0	17	2	3	0	

③	事業概要	作業安全研修の開催
---	------	-----------

④	事業目的	森林保全ボランティア活動を実施する者を対象に、可搬式林業機械操作に係る安全衛生に関する知識や機械メンテナンス技術の向上を図り、現場の事故防止につなげる。
---	------	--

⑤	事業内容・実施方法など	
	伐木等の作業安全研修にかかる講習を委託により実施（委託先：（公財）高知県山村林業振興基金） 1. 作業安全研修 ・チェーンソー特別教育①（ボランティア） 回数：1回（3日間） 参加人数：8人 日程：（学科）9月3日～4日、（実技）9月5日 ・チェーンソー特別教育②（ボランティア） 回数：1回（3日間） 参加人数：未実施 日程：（学科）12月22日～23日、（実技）12月24日 ・刈払機安全衛生教育①（ボランティア） 回数：1回（1日間） 参加人数：9人 日程：9月26日 ・刈払機安全衛生教育②（ボランティア） 回数：1回（1日間） 参加人数：未実施 日程：12月25日 ・林業機械メンテナンス①（ボランティア） 回数：1回（1日間） 参加人数：5人 日程：9月19日 ・林業機械メンテナンス②（ボランティア） 回数：1回（1日間） 参加人数：未実施 日程：1月21日	

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
チェーンソー特別教育 (人数)	目標値	10人	10人	10人	20人	20人
	R3～R6実績値 R7中間値	4人	5人	7人	16人	8人
刈払機安全衛生教育 (人数)	目標値	—	—	—	20人	20人
	R3～R6実績値 R7中間値	—	—	—	17人	9人
林業機械メンテナンス	目標値	—	—	—	—	20人
	R3～R6実績値 R7中間値	—	—	—	—	5人

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	
	チェーンソー特別教育、刈払機安全衛生教育については、定員の8割以上の受講生を確保。積極的に活用をいただいている状況。	

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
	〈下半期〉 林業機械メンテナンスについては、定員の5割の受講となっているため、チェーンソー特別教育や刈払機安全衛生教育の受講者にも積極的に周知を行い受講につなげていく。	

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
	・ボランティアの減少に伴い、積極的な受講希望者の減少が見込まれる。安全な活動の基礎となる技術指導は、受け身ではなく、自ら出向く「出前講座」の形がとれる体制を検討していただきたい。 ・一定の需要があるため、継続して取組を進めてもらいたい。参加人数増に向けて、ボランティアはしていないが関心のある層も取り込む方法を検討してはどうか。 ・林業機械メンテナンスについて、定員の5割の受講にとどまっており、状況の分析と新たな対策や具体案が必要。機械の適切なメンテナンス技術は、活動の効率化だけでなく、労働安全衛生活動の順守という観点からも重要で不可欠である。	

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	8	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	森林環境情報誌作成等委託料			所管課	林業環境政策課

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	7,317	7,317	9,194	9,194	9,194
	財源内訳	森林環境税	7,317	7,317	9,194	9,194
		その他				

③	事業概要	森林環境情報誌「もりりん」の発行及びSNS等による情報発信
---	------	-------------------------------

④	事業目的	森林の持つ多面的機能や森林環境保全の重要性への理解を深め、広げるとともに、森林・林業に関する県の取組や森林環境税についても紹介し、周知を行いながら、県民みんなで森林を守ることの重要性や木材利用が森林環境保全に繋がることへの意識を高め、森林を守る活動への県民の参画を促すことを目的とする。
---	------	---

⑤	事業内容・実施方法など	<p>【森林環境情報誌作成等実施委託】</p> <p>1 プロポーザル方式で業者を選定し、3年間の委託契約を締結（R5～R7）</p> <p>2 年度内に2回（7月・12月発行予定）、情報誌を発行。発行予定部数 各8万3千部×2回 R4:12ページ→R5～:16ページ</p> <p>3 県内全小中学校、全保育・幼稚園児の各家庭に教育委員会を通じて配布するほか、高等教育機関や図書館、量販店、公共施設等に配布。</p> <p>4 3と並行して、各号の主要なコンテンツをSNS等（YouTube、X、Instagram、県HP）により情報発信を実施。 YouTube動画：1号あたり4本配信 X、Instagram：毎月更新</p>
---	-------------	---

⑥	成果指標・達成状況	R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
	読者アンケート回答数(人)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	目標値 R3～R6実績値 R7中間値	711	897	883	905	291

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	<p>【R7年度進捗状況】</p> <p>1. もりりん14号の誌面及び動画は予定どおり7月に発行（配信）。</p> <p>(1) 誌面発行部数：8万3千部</p> <p>(2) 誌面内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集：高校生たちの熱い挑戦（県内各高校の生徒たちによる森林保全や地域木材を活用した特産品の栽培や出前授業等の活用を紹介） ・おしえて！マモルン：キノコの役割を紹介 ・木の住まい：古い木造アパートをフルリノベーションした個人宅を紹介 ・お仕事紹介：土佐備長炭をつくる備長炭職人を紹介 ・みどりの遊び場：ほっと平山、吾川スカイパークの紹介 ・県森林環境税：制度概要、R7予算の概要、こうち山の日推進事業の紹介 <p>(3) YouTube動画：誌面内容を深掘りした内容で4本配信</p> <p>(4) X、Instagram：毎月更新中</p> <p>2. SNS等のフォロワー数は3媒体ともに増加傾向。 YouTubeチャンネル登録数：78人（R5.6）→134人（R6.6）→169人（R7.3）→186人（R7.9） Xフォロワー数：226人（R5.6）→279人（R6.6）→312人（R7.3）→328人（R7.9） Instagramフォロワー数：155人（R6.6）→190人（R7.3）→221人（R7.9）</p> <p>3. 読者アンケート回答数は速報値で291人。</p>
---	----------------	---

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	<p><下半期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSのフォロワー数は増加傾向にあるものの、絶対数としては少ないことや読者アンケート回答数を増加させるため、もくもくエコランド等のイベントで、新たに作成したYouTube及びSNSのPRカードと冊子を配布し、SNSフォロワー及び読者の増加を図る。 <p><次年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PRカードによる広報に加え、フォロワー及び動画の再生回数増加につながるような仕掛けを検討。 ・PRカードによる広報に加え、フォロワー及び動画の再生回数増加につながるような仕掛けを検討。 ・自然資本および生態系の保全や回復、気候変動対策、資源循環などのテーマについて、子どもたちに分かりやすく伝える記事制作を検討。 ・YouTube動画は、動画本数を1号あたり本編動画1本+ショート動画1本へ見直し、各号発行のタイミングでSNS等にショート動画（リール）を投稿することで本編動画への誘引を図る。
---	---------------------------	---

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS動画の内容が、小学生には難しく、とっつきにくい、視聴者や利用状況の想定が不十分。どういった状況で、どういった視聴者に理解してほしいかを明確化する必要がある。 ・視聴者を増やすのであれば、モニター登録による評価制度の導入や、もくもくエコランドなどでのSNS動画コンテストの実施といった取組での認知度向上の工夫も必要。
---	---------------------------------------	--

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	9	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	森林環境学習フェア等開催委託料			所管課	林業環境政策課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		9,462	11,983	11,821	12,552	10,864
	財源内訳	森林環境税	9,462	11,983	11,821	12,552	10,864
その他							

③	事業概要	森林環境学習に関するフェアの開催
---	------	------------------

④	事業目的	県民の方々に森林の持つ多面的機能や森林環境保全の重要性を理解し、木材利用や森林への関心を深めていただく。
---	------	--

⑤		<p>事業内容・実施方法など</p> <p>1 委託先の決定：プロポーザル方式で業者を選定し、委託契約を締結</p> <p>2 開催内容の決定：森林環境学習フェアは、県、関係団体などで組織する実行委員会を月1回程度開催し、プロポーザルの提案をもとに開催内容の詳細を協議のうえ決定。</p> <p>3 開催日程・内容 ○開催日程・場所 ・R7年11月1日（土）、2日（日）の2日間、高知市東洋電化中央公園、帯屋町アーケードで開催。</p> <p>○会場全体 ・「木あそび楽校（がっこう）」をテーマとし、会場全体を学校に見立て、「学ぶ教室」、「体験教室」、「暮らし教室」の3つのエリアごとにテーマ性を持たせ、学べる内容や体験できる内容がわかるような会場構成を設定。</p> <p>○ステージイベント ・高知県木の文化表彰式 ・子どもを対象とした森の検定クイズ ・林業大学校によるチェーンソートレーニング実演 ・集客力のある芸能人を招へいしてトークショーを実施 等</p> <p>○出展ブース ・森林保全ボランティア活動紹介 ・林業大学校によるチェーンソーVR体験 ・丸太切り体験 ・木のおもちゃで遊べるブース ・木工ワークショップ（木のカホン作り、おもちゃ作りなど） ・木工品の販売 ・木造住宅のPR ・ジビエ料理や田舎寿司等、山に関係するグルメ出展 など</p>
---	--	--

⑥		<p>成果指標・達成状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7(9月末時点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学習フェア来場者数</td> <td>目標値</td> <td>18,000人</td> <td>18,000人</td> <td>18,000人</td> <td>18,000人</td> <td>12,000人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>5,000人</td> <td>6,398人</td> <td>11,212人</td> <td>6,388人</td> <td>(未実施)</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)	学習フェア来場者数	目標値	18,000人	18,000人	18,000人	18,000人	12,000人	実績値	5,000人	6,398人	11,212人	6,388人	(未実施)
	R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)																
学習フェア来場者数	目標値	18,000人	18,000人	18,000人	18,000人	12,000人															
	実績値	5,000人	6,398人	11,212人	6,388人	(未実施)															

⑥		<p>進捗状況・成果(9月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルで選定された委託事業者と8月6日に委託契約を締結。 ・実行委員会を8月6日、9月12日、10月8日に開催。 ・10月～ 県内全小学校及び高知市近郊の中学校及び高校、県内商業施設等にチラシを配布。その他テレビCM、新聞広告、SNS広告、ほっとこうちWEB版への掲載についても実施予定。
---	--	---

⑦		<p>下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針</p> <p>〈下半期〉 ・R3年度以降来場者数の目標を達成できていない状況が続いているため、SNS広告の目標インプレッション数の増加、ほっとこうちWEB版への掲載など広報を強化。</p> <p>〈次年度〉 ・メリハリのある費用対効果の高いフェアの開催とするよう、開催日数について、共催者である木材普及推進協会や出展者等の意見を参考に、2日間を1日に見直すことを検討していく。</p>
---	--	--

⑧		<p>森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林や木材に関する知見に乏しい世代が多くなってきていることへの対応として、単なる丸太切り体験に留まらず、子どもと親の両世代への「道具の使い方」のコツの伝授や丸太の成り立ちなどに関連した知識も意識する必要がある。住宅面でも、木材の特性のほかに、メンテナンスの知識・技術も普及する必要がある。 ・開催日数を1日に見直すことを検討するという方針は、財源の適正活用という観点からも良い方策ではないか。参加者数や木材普及推進協会や出展者等の意見を参考に、費用削減と効果の最大化を両立できる実施形態を検討いただきたい。
---	--	---

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	10	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	座談会等開催事業委託料			所管課	林業環境政策課

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	—	—	3,045	2,237	3,698
	財源内訳	森林環境税	—	—	3,045	2,237
		その他				

③	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・森林環境税に関する意見交換会の企画・運営 ・森林環境税に関する広報
---	------	---

④	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会の開催により、森林環境税について県民に対し直接説明し、意見を聴取する機会を設け、事業要望の聞き取りや事業の改善等に反映させる。 ・森林環境税の広報を実施し、認知度の向上を図る。
---	------	---

⑤	事業内容・実施方法など	
	<p>1) 地域座談会（4回）の企画・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央東林業事務所管内及び須崎林業事務所管内地域住民や高校生を対象に計4回の意見交換会を実施、計60名以上を目標として森林環境税（以下、「税」という）に関する意見を聴取 <p>内 容：【第一部】挨拶・県からの森林環境税の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境税の概要や導入の経緯、使途等について説明 <p>【第二部】意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各座談会ごとにテーマを設定し、グループごとに税に対する意見やアイデアを出していただく ・各グループで出た意見を発表し意見を共有する <p>2) 森林環境税の広報</p> <p>① 新聞広告</p> <p>税の認知度向上を目的とした広報を実施</p> <p>② デジタル広告</p> <p>Instagram、Facebook、YouTube、TVerの媒体により下記ア、イの広報を実施</p> <p>ア 税の認知度向上を目的とした広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税の概要や、税を活用した取組事例を紹介 <p>イ 森林環境保全の普及啓発や県民の保全活動への参加を促す広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森・ヒト・こうち応援ネット」への遷移を図り、県民の森林環境保全活動への参加を促す内容 <p>③ 牛乳パック広告</p> <p>「森・ヒト・こうち応援ネット」への遷移を図り、県民の森林保全活動への参加を促す内容</p>	

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
座談会来場者数	目標値	—	—	60人	80人	60人
	実績値	—	—	76人	65人	89名(R7未見込)

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)			
	【意見交換会】			
	開催日	開催場所	対象者	参加人数
	R7.9.3	四万十高校	生徒(3年生)	14名
	R7.9.9	高知農業高校	生徒(2年生)	17名
	R7.10.22	森林研修センター情報交流館	情報交流館ネットワーク構成団体(森林ボランティア団体)	16名
	R7.11.4	須崎市森林組合	須崎地区森林組合技術員及び職員	42名
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生との座談会では以下の2つのテーマで意見交換を実施。 ・「税を知ってもらうには」というテーマに対しては、SNSやCMでのPR、イベント開催、学校での出前授業、税の活用事業を体験する、県産材のノベルティを配ってPRする、といったご意見をいただいた。 ・「税を使ってやってほしいこと」というテーマに対しては、植樹やチェーンソー体験、木を使った家具等の製作、狩猟体験、ジビエ料理作り、フィールドワークなど、「体験」を重視した意見が多く見られた。 <p>【広報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月下旬～ Facebook、InstagramにおけるSNS広告、TVer、YouTube広告、新聞広告を実施予定 ・11月～ 牛乳パック広告を実施予定 			

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
	<p>〈次年度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の森林環境税の課税期間がR9年度に満了するため、R8年度からR9年度にかけて、課税期間の延長の可否や、延長後の使途等について検討が必要となる。検討の材料とするため、R8年度において、県内6地域での座談会と企業アンケートを実施予定。 ・税の延長可否とより有意義な使途の検討に資する県民の意見を広く集めるため、参加者が森林保全について深く考え、その上で意見を引き出せるような手法を検討する。 ・R8年度の参加者は公募を予定しており、集客が課題となるため、広報による周知に加え、各林業事務所と連携し、関係団体（市町村、森林組合、林業事業体、森林保全ボランティア団体、環境保護団体等）に対する座談会の周知と参加者の掘り起こしを行っていく。 	

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会事業では、意見交換に加えて、例えば事業参加など、参加者に開催テーマに沿った経験をしてきてもらうことも重要。また、座談会と並行して、森林環境税活用事業のモニター制度などがあれば内容の充実が可能。 <p>・学校での開催など、ターゲットを絞った方法は、集客が容易で、意見の吟味もしやすく有効である。アンケート調査で明らかとなった、学校と保育現場における自然体験活動を導入する際の課題（安全面の確保）を深く掘り下げるための座談会を開催するのが望ましい。</p> <p>・県民の意見、座談会や委員会での意見を大事にし、県民の意向に沿った事業を行うべき。</p>	

R7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	11	大区分	こうちの森で人づくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	緑化促進事業費補助金			所管課	林業環境政策課

事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
②	総事業費(千円)	—	—	6,353	14,835	13,000
	財源内訳					
	森林環境税			6,353	14,835	13,000
	その他					

③ 事業概要	幅広い県民に利用される公共的空間等を郷土樹種を用いて緑化する取組に対して支援する。
--------	---

④ 事業目的	県民の森林に対する理解と関心を高め、緑を育み、守る活動につなげる。
--------	-----------------------------------

⑤ 事業内容・実施方法など	
<p>事業概要：市町村や県内に事業所を置く企業、団体等が実施する、幅広い県民に利用される公園や公共的施設、教育・保育施設等を郷土樹種を用いて緑化する事業に対し、補助金を交付する</p> <p>事業実施主体(補助事業者)：市町村、市町村教育委員会、社会福祉法人、医療法人、財団法人、県内に事務所を置く企業、団体等であって、補助事業完了後も責任をもって継続的に樹木の育成管理を行えるもの</p> <p>補助対象施設：教育・保育施設、市町村や市町村教育委員会の整備する施設又は木材を利用したP R効果の高い公共的施設(社会福祉施設、病院又は診療所、運動施設、社会教育施設、駅等及び道の駅)</p> <p>補助対象経費：郷土樹種を活用したモデル的な緑化における植樹や樹木展示に要する経費(樹木・プランター購入費、運搬費、土壌改良費、産業廃棄物運搬処理費、工事請負費、設計・測量・調査委託料) ※1事業の補助金額が40万円以上を対象</p> <p>補助率：市町村及び市町村教育委員会、教育・保育施設：10/10以内 その他：1/2以内(ただし、大企業に該当する場合は1/3以内)</p> <p>補助額の上限：600万円/事業</p> <p>補助の条件：森林環境税を活用して緑化整備したことを看板等により表示すること</p>	

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
事業実施箇所数	目標値	—	—	3箇所	5箇所	5箇所
	R3~R6実績値 R7中間値	—	—	3箇所	5箇所	6箇所(R7未見込)
緑化施設の県民への影響度 (延べ人数/年間)	目標値	—	—	30,000	50,000	267,200
	R3~R6実績値 R7中間値	—	—	2,967,000	387,142	383,440(R7未見込)

⑥ 進捗状況・成果(9月末時点)	
<p>・6件交付申請中(内示済)であり、現在交付決定に向けて内容精査中。 予算額：13,000千円 内示額：13,000千円 計画地：教育・保育施設6箇所</p>	

⑦ 下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
<p><下半期> ・計画通りの事業執行ができるよう、補助金の交付決定を速やかに行うとともに、相談等への対応などの支援を行う。</p> <p><次年度> ・3ヶ年事業としてR5年度よりスタート。教育・保育施設を中心に一定のニーズがあり、今後も、幼少期から身近な施設で緑に触れる機会を増やし、樹木や森林に対する関心を高める取組が必要であるため、事業をR10年度まで延長する方針。</p>	

⑧ 森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
<p>・事業の積極的な広報・アピールにも努めてほしい。将来的には、幼稚園・保育所・小学校で一定期間、郷土樹種の苗木を育て、公共的施設等へ植栽する方法を検討してほしい。これにより、かつて育てた苗木が植えられている施設への愛着の形成に繋がることが期待される。県民が関わることのできる仕組みの検討を。</p> <p>・緑化の後のメンテナンスについてのフォローアップも必要。樹木医や庭師による木育の機会にもつなげてはどうか。</p> <p>・幼稚園や保育所、学校に植樹する場合、教育環境に大きな変化を及ぼす可能性があるため、メリットとデメリットがわかる資料があると良い。</p>	

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	12	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	甬喜ヶ峰森林公園整備事業			所管課	林業環境政策課

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	0	0	0	4,752	7,680
	財源内訳	森林環境税				4,752
その他					0	750

③	事業概要	県立甬喜ヶ峰森林公園において、公園内の森林を適切に間伐するなど、森林環境学習のためのフィールドを整備する。
---	------	---

④	事業目的	当公園の「森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高めるため」という目的に合致するように、森林環境学習施設としての安心安全なフィールドとして整備する。
---	------	---

⑤		<p>事業内容・実施方法など</p> <p>○事業内容 甬喜ヶ峰森林公園内の森林整備の必要な箇所において、R7年度からR9年度の3年間で森林整備（作業道開設、間伐等）を行う。</p> <p>○植生調査 希少植物の生息の有無を確認するため、R7年度秋期及びR8年度春期に事業実施予定区域で植生調査を実施し、調査結果を踏まえて森林施業を実施する。</p> <p>○森林施業 【作業道整備】 ・作業道開設：延長1,702m、修理100m（R7年度 1,060m、R8年度 576m、R9年度 66m、修理：R8年度100m）</p> <p>【間伐】 ・計画間伐面積 9.63ha（R8年度 5.38ha、R9年度 4.25ha） ・対象樹種：スギ、ヒノキ ・林齢：48～73年生 ・施業種：搬出間伐（間伐率：概ね30%）</p> <p>【除伐・枝打ち】 「記念の森」内で昭和53年に開催された全国植樹祭式典会場隣接地については、景観の向上を目的として除伐、枝打ちの実施 ・計画面積：0.10ha（R9年度 0.10ha）</p> <p>【風倒木処理】 ・計画面積：0.30ha（R9年度 0.30ha）</p> <p>【その他】 展示林として普及効果が高いと見込まれる箇所に、搬出間伐方法の違い（列状間伐と定性間伐）及び施業地と無間伐地の比較できる区域を設置。</p>
---	--	--

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
森林作業道開設	目標値	-	-	-	-	1,060m
	R3～R6実績値 R7中間値	-	-	-	-	0m
間伐	目標値	-	-	-	15ha	-
	R3～R6実績値 R7中間値	-	-	-	2.175ha	-

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	<p>R7年7月9日 甬喜ヶ峰森林公園整備事業プロポーザル審査委員会の開催</p> <p>R7年7月17日 受託候補者の決定</p> <p>R7年7月17日～令和7年8月13日 候補者と協議、現地確認</p> <p>R7年10月16日 契約締結</p>
---	----------------	--

⑦	<p>下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針</p> <p>〈下半期・次年度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 希少植物の保護のため、植生調査の結果を踏まえて森林施業の実施区域の変更等を実施する。 工程管理を適切に実施し、スケジュールどおりの施業を行う。
---	--

⑧	<p>森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林環境学習のフィールドとしての整備であるため、具体的な利用案の提示をセットとすることが望ましい。どのように活用されるかを想定した整備エリアであるかが利用者に伝わることで、整備効果がより発揮される。
---	--

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	13	大区分	こちの森でづくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	全国植樹祭実行委員会負担金			所管課	林業環境政策課全国植樹祭推進室

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	0	0	0	0	15,480
	財源内訳	森林環境税	-	-	-	-
		その他	-	-	-	7,748

③	事業概要	令和10年度の「第78回全国植樹祭」の開催に向けた準備を行う。
---	------	---------------------------------

④	事業目的	「第78回全国植樹祭」を開催するために組織された、第78回全国植樹祭高知県実行委員会が実施する事業に対する経費として負担金を交付する。
---	------	---

⑤	事業内容・実施方法など	
	<p>第78回全国植樹祭高知県実行委員会に対し、活動に係る経費を交付する。</p> <p>○対象経費</p> <ol style="list-style-type: none"> 総務費（実行委員会、専門委員会開催費、事務局運営費等） 開催事業費（基本計画等策定費、宿泊・輸送管理費、会場整備費、植樹行事費、記念事業費、苗木の育成体験事業費等） 広報啓発費（大会テーマ・シンボルマーク・ポスター募集選定費、広報啓発品購入費、ホームページ作成管理委託費、広告費等） <p>○補助金額 定額</p> <p>○令和7年度の主な取組予定内容（森林環境税を充当する取組）</p> <p>(1) 機運醸成活動の推進</p> <p>ア 苗木のスクールステイの実施 全国植樹祭や関連植樹行事等で使用する苗木を、県内の保育所・幼稚園、小中学校等で育てていただくことで、森林や身近な緑の大切さについて子供たちをはじめとする多くの皆さまに知っていただくとともに、全国植樹祭の開催機運を高める。</p> <p>イ 大会テーマ及びシンボルマークの公募・選定 全国植樹祭基本構想の開催理念・大会の基本方針を踏まえた大会テーマ及びシンボルマークについて県内外から広く公募し、選定する。</p> <p>ウ 広報活動の実施 横断幕やのぼり旗などの広報啓発品を制作して、各種イベント等を通じて開催をPRする。あわせて、大会ホームページを新たに作成するとともに、県広報誌など様々な媒体を通じて取組を情報発信することで、準備段階から県民等による植樹祭の開催に向けた機運を高める。</p>	

⑥	成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
	苗木のスクールステイ 参加校	目標値					30団体
		R3~R6実績値 R7中間値					30団体(R7.10見込)

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・R7年9月5日に「第78回全国植樹祭高知県実行委員会」が設立し、9月8日交付決定の上、9月25日交付。 ・苗木のスクールステイ：R7年9月5日から応募を開始し、10月17日（金）まで募集。 	

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
	<p><下半期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第78回全国植樹祭の円滑な開催に向けて引き続き支援を行う。 <p><次年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土緑化運動の中心的行事である全国植樹祭の開催準備業務のうち、広く県民に緑化の大切さを普及し、森林環境保全や木材利用の理解と関心を深めることにつながる広報や普及啓発業務の次の経費の財源に県森林環境税を充当する予定。 ・大会ポスターの原画募集 ・公式HPやSNSでの情報発信 ・2年前イベントの開催及び1年前イベントの企画委託 ・広報映像及び広報誌制作委託 ・苗木のスクールステイの実施 ・木製モニュメント、オブジェの製作コンペ委託 ・植樹会場の測量委託 等 	

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
	<p>・点の取り組みでの伸びが期待できないのであれば、線・面での取り組みを想定してみる視点も必要。よさこい祭りの会場など、PR効果が高く、観光資源としても意義のある景観・内装整備などについて、商工会・関係自治体が一体となったプロジェクトを採用する形などを検討してはどうか。</p> <p>・本事業には期待している。大きな成果が出ていると言にくい現状だが、様々な支援の形を検討いただきたい。木製品の製造側への支援に加え、導入先の開拓や周知・広報の強化についても検討の余地がある。</p> <p>・木製品は価格が高いため、補助があっても他の製品の価格に追いついていないのが現状である。木製品に付加価値をつける工夫として、例えば学校の椅子をキットで納入し、生徒が仕上げる取り組みなどで木材の重要性を伝える方法が考えられる。</p>	

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	14	大区分	こうちの森で人づくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報
	事業名	高知の森と水・流域合同フォーラム開催業務委託料			所管課	自然共生課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		0	0	0	0	1,400
	財源内訳	森林環境税					1,400
その他						0	

③	事業概要	森と水のつながりをテーマとした2日間のフォーラムを開催し、第一部では事例発表や基調講演、第二部では活動団体や個人が取組を発表し合うワークショップを行う。
---	------	--

④	事業目的	<ul style="list-style-type: none"> フォーラムを通じて、森林環境や水環境への理解や学びを深めるとともに、活動者同士の交流により、今後の連携や相互協力につなげる。 若い世代や一般県民の参加（運営参加、一般参加）により、今後の担い手育成につなげる。
---	------	---

⑤		<p>事業内容・実施方法など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フォーラム名称 「ちょっと聞いてみる？こうちの森と川のこと ～流域の明日のために～」 ●開催日時 第一部：令和8年2月20日（金）13:00～16:40/第二部：令和8年2月21日（土）9:30～16:20 ●会場 こうち男女共同参画センター「ソーレ」3階（メイン会場：大会議室、サブ会場：ホール、研修室） ●内容 【第一部】事例発表・基調講演 〈事例発表〉 「森林の多面的機能の評価」 一般財団法人もりとみず基金 「保持林業～木を伐りながら生き物を守る～」 森林総合研究所四国支所 「川と水辺を愛する人の交流の場づくり」 滋賀県土木交通部流域政策局 〈基調講演〉 「地域における自然資本管理のための協働のプロセスとデザイン」 鎌田 磨人 氏（徳島大学大学院社会産業理工学部研究部 教授/高知県四万十川流域保全振興委員会 会長） 【第二部】ワークショップ 〈取組発表〉 県内の森林環境や水環境の保全等に取り組む団体や個人、行政などが登壇し、それぞれの取組事例について発表を行う。 10分（発表5分・質疑5分）×20団体を予定 〈クロストーク〉 取組発表団体が登壇し、発表団体同士や観客も交えた対話を行い、取組の特徴や魅力を深掘りする。 30分×2回（10団体ずつ登壇）を予定 【共通】ポスター展 会場ホールや研修室にパネル展示スペースを設け、活動団体等や行政などの取組をまとめたパネルや活動写真などを展示する。
---	--	---

⑥		<p>成果指標・達成状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標・達成状況</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7(9月末時点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フォーラム参加者数</td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>R3～R6実績値 R7中間値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(未実施)</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)	フォーラム参加者数	目標値					300	R3～R6実績値 R7中間値					(未実施)
成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)																
フォーラム参加者数	目標値					300																
	R3～R6実績値 R7中間値					(未実施)																

⑥		<p>進捗状況・成果(9月末時点)</p> <p>9月末時点未開催（令和8年2月開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例発表及び基調講演予定者への依頼は完了し、予定者の承諾済。 ワークショップ開催に係る業務委託は令和7年10月1日付けで締結予定。
---	--	---

⑦		<p>下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針</p> <p>〈下半期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年10月以降、ワークショップ開催に係る、取組発表者への発表依頼、ポスター展示出展者や運営ボランティアの募集、一般参加者への広報等について委託先と連携して取り組む。 当日の参加者確保のため、チラシ・ポスターやSNS等を用いた広報に加え、関係行政機関やこどもエコクラブ等の団体を通じて幅広く広報する。
---	--	---

⑧		<p>森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生など若い世代の参加を促すのであれば、高校生SDGsフォーラムのように、若者層の活動の発表の場を用意し、参加者から関係者に変化させることが望ましい。若い世代の取組に光を当てることが将来の地域活動の担い手を育てることに繋がる。 森林保全の必要性を広く理解してもらうため、参加者増加に向けた周知に力を入れてほしい。
---	--	--

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	16	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	森林の保全につながる木材利用
	事業名	木の香るまちづくり推進事業費補助金			所管課	木材産業振興課

事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)	
②	総事業費(千円)	38,442	31,996	15,999	10,287	20,418	
	財源内訳	森林環境税	38,442	31,996	3,176	10,287	20,418
		その他			12,823		

③	事業概要	県内の木材活用施設、学校施設等への県産材を使用した木製品の導入や施設の内外装木質化に対する支援
---	------	---

④	事業目的	木の良さをPRすることにより県産材の需要拡大を図り、本県の豊富な森林資源の活用につなげる。
---	------	---

⑤	事業内容・実施方法など	
	<p>①木材活用施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助内容：内外装木質化び木製品の導入 ・補助先：県内に事務所を有する企業、法人及び団体等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額 4,000千円） <p>②学校関連環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助内容：学校等の内外装木質化及び木製の机、椅子、遊具などを導入 ・補助先：社会福祉法人、学校法人、教育施設等の設置者等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額4,000千円、小・中学校の内装木質化については限度額1,000万円） 	

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
整備箇所数(箇所)	目標値	79	97	20	20	20
	R3~R6実績値 R7中間値	71	62	11	15	5

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> ・整備箇所数の目標値20件に対して、現時点では5箇所に対して支援を行っており、達成率は25%となっている。 ・交付申請書提出中の案件があり、10月中旬までに新たに1箇所へ支援予定。
---	----------------	---

下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
⑦	<p>〈下半期〉</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から対象が民間事業者のみとなったことから整備箇所数が減少しており、さらなる事業の周知を行う必要がある。 <p>【対応方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度より、県内のカーディーラー、食品小売り会社および介護・福祉に係る各種団体へ訪問し事業PRを実施中。 ・森林環境情報誌「もりりん（7月号）」に事業案内を掲載。12月号についても掲載予定。

森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・点の取り組みでの伸びが期待できないのであれば、線・面での取り組みを想定してみる視点も必要。よさこい祭りの会場など、PR効果が高く、観光資源としても意義のある景観・内装整備などについて、商工会・関係自治体が一体となったプロジェクトを採用する形などを検討してはどうか。 ・本事業には期待している。大きな成果が出ていると言いにくい現状だが、様々な支援の形を検討いただきたい。木製品の製造側への支援に加え、導入先の開拓や周知・広報の強化についても検討の余地がある。 ・木製品は価格が高いため、補助があっても他の製品の価格に追いついていないのが現状である。木製品に付加価値をつける工夫として、例えば学校の椅子をキットで納入し、生徒が仕上げる取り組みなどで木材の重要性を伝える方法が考えられる。

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	17-1	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	野生動植物との共存
	事業名	指定管理鳥獣捕獲等事業委託料			所管課	中山間地域対策課鳥獣対策室

事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)	
②	総事業費(千円)	11,381	9,640	12,180	9,454	13,635	
	財源内訳	森林環境税	5,691	4,820	6,090	4,806	6,818
		その他	5,690	4,820	6,090	4,648	6,817

③	事業概要	一般の狩猟者による捕獲が及ばない山岳地の国及び県指定鳥獣保護区などの捕獲困難地域で、生息密度を高めているシカについて捕獲圧を高める必要があり、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託してシカ捕獲を実施する。
---	------	---

④	事業目的	シカの生息密度が5~10頭/km2を超えるとシカによる食害が著しくなるとされており、本事業によるシカの生息密度低下のための捕獲を実行することで、自然植生の被害軽減及び早期回復を図る。
---	------	---

事業内容・実施方法など	
1	<p>予算 当初：13,635千円（森林環境税）6,818千円（国）6,817千円</p>
2	<p>実施場所 香美地区（甬喜ヶ峰鳥獣保護区） 幡多地区（八面山鳥獣保護区及び隣接する国有林）</p>
3	<p>執行実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 7月28日 事業実施計画策定に係る協議 ・事業実施計画（案）について、環境省、森林管理局、関係市町村との協議 ● 8月7日 事業実施計画の策定 ・捕獲目標、事業実施区域等の確定 ・事業実施計画の報告（県→環境省）
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月8日 公募型プロポーザル公告 ・公募対象者：認定鳥獣捕獲等事業者 ● 8月26日 公募型プロポーザル審査会 ● 9月16日 委託契約締結（委託先：認定鳥獣捕獲等事業者） ● 9月18日 国有林への入林届の提出 ● 9月下旬～ 国有林内でわな猟によるシカ捕獲の実施 ● 2月末 捕獲事業終了報告（委託先→県） ・捕獲実績に応じた変更契約 ● 3月 実績報告

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
捕獲頭数(高岡区域) ※R7は香美区域	目標値	30	30	30	20	10
	R3~R6実績値 R7中間値	10	14	9	12	(未実施)
捕獲頭数(幡多区域)	目標値	30	30	30	20	30
	R3~R6実績値 R7中間値	38	18	31	23	(未実施)

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	・プロポーザルで選定された事業者と契約を締結し、捕獲事業開始に向けて準備を進めている。
---	----------------	---

⑦		<p>下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針</p> <p>〈下半期〉 ・香美地区は、捕獲数が想定できないため、状況を見ながら事業内容の見直しを図る。</p>
---	--	---

⑧	<p>森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)</p> <p>・費用対効果や国有林における実施体制、森林管理署への対応等については疑問を感じる。特に事業評価シートにおいては、事務手続きの説明にとどまっており、具体的な事業計画や実施内容の詳細が不十分であるため、記載内容の再考を求めたい。事業目的そのものの必要性は理解しており、事業継続を望む。</p>
---	--

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	17-2	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	野生動植物との共存
	事業名	指定管理鳥獣捕獲等事業計画策定調査委託料			所管課	中山間地域対策課鳥獣対策室

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		0	0	0	10,778	10,076
	財源内訳	森林環境税				2,890	2,538
その他					7,888	7,538	

③	事業概要	指定管理鳥獣捕獲等事業の対象地域である「香美区域」「幡多区域」「石鎚山系」のシカ生息密度を調査し、捕獲効果を検証する。また、前年度まで捕獲をしていた「高岡区域」での捕獲効果を検証する。
---	------	--

④	事業目的	捕獲事業実施のための実施計画を策定するほか、捕獲事業終了後は捕獲によるシカ生息数の変化の調査と植生回復状況のモニタリングを行うことで事業を評価する。
---	------	--

事業内容・実施方法など	
1	<p>予算 当初：10,076千円（森林環境税）2,538千円（国）7,538千円</p> <p>2 執行実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 8月8日 業務委託契約 <ul style="list-style-type: none"> ・委託先：専門業者 ・契約方法：指名競争入札 ● 8月25日 国有林への入林届の提出 ● 9月～3月 香美地区、幡多地区、石鎚山系、高岡地区における生息状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・自動カメラによる出現頻度調査、植生調査 ● 11月 特定鳥獣保護管理計画検討会への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の途中報告 ● 2月 指定管理鳥獣捕獲等事業検討会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・香美地区、幡多地区、石鎚山系、高岡地区における事業実施効果の事後評価 ● 3月 報告書の確認、受理

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
R6捕獲事業実施区域調査(区域)	目標値	—	—	—		2
	R3～R6実績値	—	—	—		2
	R7中間値	—	—	—		3
県内シカ生息状況調査(ルート数)	目標値	—	—	—	70	—
	R3～R6実績値	—	—	—	70	—
	R7中間値	—	—	—	70	—
R7年度以降の捕獲事業候補地調査(区域)	目標値	—	—	—		2
	R3～R6実績値	—	—	—		2
	R7中間値	—	—	—		2

進捗状況・成果(9月末時点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・指名競争入札により選定された業者と8月8日に契約を締結し、捕獲事業の効果を検証するための各種調査に着手している。 	

下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
⑦	<p>〈下半期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石鎚山系への広がりを見せているシカの捕獲効果を引き続き検証していく。 ・初めて捕獲場所に選定した香美地区の捕獲効果を検証していく。

森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き効果検証に必要なデータの蓄積を進めてほしい。 ・ニホンジカに加え、地域によってはツキノワグマの調査も実施していただきたい。野生動物との共生社会の在り方を考える上で、活動エリア、密度の把握、当該エリアの堅果類の作況状況の把握なども重要となるため、そういった取組との連動も意識していただきたい。 ・気候変動や里山放置等で鳥獣が人里に下りることで被害が拡大しており、シカによる被害も多いので、積極的に推進してもらいたい。

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	17-3	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	野生動植物との共存
	事業名	森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料			所管課	中山間地域対策課鳥獣対策室

事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)	
②	総事業費(千円)	13,407	16,582	19,135	20,714	21,000	
	財源内訳	森林環境税	13,407	16,582	19,135	20,714	21,000
		その他	0	0	0	0	0

③	事業概要	狩猟によるシカの捕獲実績が上位である市町村においてシカによる森林及び自然植生被害を軽減するため、狩猟期（11月15日～3月31日）のうち概ね2月末までのシカ捕獲に対して捕獲報償金を支出する。
---	------	---

④	事業目的	生息頭数の多い場所でシカを捕獲することにより、シカによる自然植生被害等で低下した森林の持つ公益的機能（水源のかん養、土砂の流出防備など）の早期回復を図り、林業被害を防止する。
---	------	---

事業内容・実施方法など	
令和5年度までの5市町に加え、依然としてシカの推定生息密度の高い県東部の中でH30～R4年度狩猟期のシカの捕獲頭数が上位である「室戸市」、「東洋町」、「馬路村」の3市町村にシカ捕獲報償金支払事務を委託し、シカの狩猟期間（11月15日～3月31日間）のうち、3月末までに市町村が狩猟者への捕獲報償金（8,000円/頭）の支払処理を完了したものを対象に委託料を支払う。	
1	予算 当初：21,000千円（森林環境税）21,000千円
2	執行実績
⑤	●10月 委託契約（8市町村） ・委託先：安芸市、四万十市、香美市、大豊町、四万十町、室戸市、東洋町、馬路村 ・契約方法：随意契約
	●11月15日 狩猟期開始
	●11月～2月 市町村への進捗管理
	●2月末 事業対象分終了 ・概ね2月末までの捕獲に対して報償金の支払
	●3月 事業終了報告（8市町村 → 県）
	●3月 委託業務完了 ・完成検査

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
シカ捕獲頭数(頭)	目標値	2500	2400	2500	2500	2500
	R3～R6実績値	1596	1974	2278	2466	(未実施)
	R7中間値					

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	・契約締結に向けた事務作業の実施

⑦	下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	〈下半期〉 ・目標頭数を達成できるよう、捕獲数に応じて市町村と変更契約を実施する。

⑧	森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	・継続的に事業を実施し、ニホンジカの個体数密度の低減に努めてほしい。

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	17-4	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	野生動植物との共存
	事業名	シカ個体数調査委託料			所管課	中山間地域対策課鳥獣対策室

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)	0	0	0	0	2,350
	財源内訳	森林環境税				
		その他				

③	事業概要	最新のシカの生息状況等を把握するため、ペイズ推計を専門機関に委託する。
---	------	-------------------------------------

④	事業目的	令和6年度までのシカの調査データを元に県内の正確な生息状況等の把握及び将来予測を実施し、県の策定する第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画の中間評価及び次期管理計画の策定に活用し、効果的なシカ捕獲を実施し、農林業被害の低減につなげる。
---	------	--

事業内容・実施方法など	
1 予算	当初：2,350千円（森林環境税）2,350千円
2 執行実績	
● 6月19日	業務委託契約 ・委託先：専門業者 ・契約方法：随意契約
● 7月18日	事業内容の協議 ・推計方法 ・将来予測
● 7月～11月	分析の実施
⑤ ● 11月	特定鳥獣保護管理計画検討会での中間報告
● 3月	報告書の確認、受理
3 事業結果の活用（次年度）	ニホンジカによる農林業被害は県全体の被害額の約2割（林業被害では9割）を占め、生息域の広がりを見せているため、県では第二種特定鳥獣管理計画を策定した上で、市町村と連携して効果的な被害対策を進めている。 この計画の期間は令和9年3月31日までとなっており、今年度実施しているシカ個体数調査において、最新のシカの生息状況を推計し、その結果を活用して令和8年度に新たな計画の策定を行う予定である。 新たな計画に基づき、県内の地域ごとの捕獲目標を建て、効果的なシカ捕獲を実施し、農林業被害の低減につなげる。

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
メッシュごとのシカ個体数の推計	目標値					364
	R3～R6実績値 R7中間値					(分析中)

⑥	進捗状況・成果(9月末時点)	6月に契約を締結し、分析に入っている。
---	----------------	---------------------

下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針	
⑦	〈次年度〉 個体数の推計結果を基に、次年度、第二種特定鳥獣管理計画の策定業務を実施する。

森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)	
⑧	・特定管理計画に必要となる生息状況を正確に把握し、地域ごとの目標に応じた効果的な捕獲の推進をお願いする。また、過去にも生息調査を行っているの、調査結果を比較するなどして公表してもらいたい。

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	18	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	野生動植物との共存
	事業名	希少野生植物食害対策防止事業			所管課	自然共生課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		16,864	11,637	12,107	12,683	13,156
	財源内訳	森林環境税	16,864	11,637	12,107	12,683	13,156
その他							

③	事業概要	(1) 希少野生植物の食害状況調査、防護柵設置候補地選定、防護柵設置計画作成 (2) 防護柵設置 (3) 防護柵設置後のモニタリング調査、防護柵の補修
---	------	---

④	事業目的	県内の山岳地帯において、ニホンジカによる希少野生植物の食害が拡大しており、被害の実態を調査するとともにその対策を講じる。
---	------	--

事業内容・実施方法など

(1) 調査・検討・対策の計画
野生植物に関する専門的知識を持つ者による食害状況等の調査を行い、調査結果及び専門的知見により防護柵（保護ネット）設置計画を立てる。
【調査箇所数（R7.9.30時点）：2箇所】

(2) 対策の実施（防護柵設置）
防護柵（保護ネット）設置計画に基づき、専門家の指示の下、防護柵を設置する。
【R7.9.30時点：いの町本川筒上山100m設置済】

(3) モニタリング等
昨年度までに設置した防護柵（保護ネット）周辺で生育範囲拡大などの回復状況等のモニタリングや現地ヒアリングを行い、設置効果、植物個体群や防護柵破損の状況を把握のうえ適切な処置を行う。
【R7.9.30時点：モニタリング調査15地点で実施中】

⑤

調査・検討・対策計画作成

↓

対策の実施(防護柵設置)

↓

モニタリングの実施

公益財団法人高知県牧野記念財団に委託
希少野生植物の分布など現地調査を行い、シカの捕獲データなどを基に防護柵設置計画を作成。

管轄の森林組合等に委託
上記設置計画に基づき、防護柵を設置。

県内コンサルタント会社に委託
防護柵設置後の植生の回復状況等のモニタリング調査を実施し、防護柵の効果等を把握。全箇所の既設防護柵の破損状況を点検し軽微な修繕も実施。

成果指標・達成状況		R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
食害拡大地域の 現地調査箇所数(箇所)	目標値	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	2箇所
	R3~R6実績値 R7中間値	8箇所	9箇所	5箇所	5箇所	2箇所
	防護柵設置(柵延長距離) (m)	目標値	200m	292m	120m	242m
R3~R6実績値 R7中間値	290m	192m	50m	172m	100m	
	植生回復状況(各調査地点 1m当たりの植被率(%)の推移) (%)	目標値	70%	70%	70%	70%
R3~R6実績値 R7中間値	90%	85%	86%	81%	調査中	
	防護柵新設により保護される 希少植物優先度点数(点)	目標値	62点	48点	24点	50点
R3~R6実績値 R7中間値	62点	24点	44点	20点	未算定	

進捗状況・成果(9月末時点)

- ・ 現地調査について、2箇所実施済。
- ・ 防護柵の設置について、100m設置済。
- ・ 植生回復状況未算定(調査中につき)。
- ・ 希少植物優先度点数未算定(残箇所柵設置後算定予定)

下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針

(次年度)

- ・ 調査箇所数に対し防護柵の設置数が少ないため、今年度と同様、調査数を減らして防護柵設置数を増やす予定。
- ・ 落石や積雪による防護柵への影響、食害状況の変化を踏まえ、防護柵の形状、範囲の変更等も検討していく。

森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など)

- ・ 保護エリアは拡大することはあっても縮小はしないため、管理コストを効率化することが重要。
- ・ 当初見込んだよりも防護柵の設置箇所数が少ない状況にあるとの報告があり、希少植物の保護という緊急性を鑑みると、食害被害のモニタリングデータ数の減少が懸念される。次年度に複数箇所での設置により挽回を図る計画などを検討してはどうか。
- ・ 希少野生植物保護のために有効な手段として評価できる。防護柵設置周辺での捕獲をセットで実施すべきと考える。

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）

①	整理番号	19	大区分	豊かな森づくり事業	小区分	野生動植物との共存
	事業名	森林資源再生支援事業費補助金			所管課	木材増産推進課

②	事業費		R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費(千円)		0	0	0	1,543	4,532
	財源内訳	森林環境税	-	-	-	1,543	4,532
その他		-	-	-	0	0	

③	事業概要	・シカ防護柵点検管理：シカ防護柵の点検及び簡易な補修を行うことにより、防護柵の機能を維持し、シカなどの野生動物からの食害を防止することで、健全な森林を生育する。
		・補植等支援：苗木の食害等を受けた造林地に対して補植及び忌避剤の散布を行うことで、健全な森林を生育する。

④	事業目的	・シカ防護柵点検管理：シカ防護柵の点検及び簡易な補修を行うことにより、防護柵の機能を維持し、苗木の食害を防ぐことで健全な森林を生育する。
		・補植等支援：苗木の食害等を受けた造林地に対して補植及び忌避剤の散布を行うことで、健全な森林を生育する。

⑤		事業内容・実施方法など ●シカ防護柵点検管理 2人1組で防護柵の周囲を踏査し、防護柵に軽微な異常があれば簡易な補修を実施する。 ○補助単価 定額：21,000円/日・2人 ○確認内容（防護柵チェックシート及び実施写真により確認） ・支柱：折れ、破損及び傾倒等の異常。 ・張りロープ：破断、著しい劣化及び緩み等の異常。支柱キャップの脱落。 ・防護ネット：破損、著しい劣化及び結合部のほころび等の異常。ネット浮き上がりによる隙間。 ・抑えロープ：破断及び著しい劣化等の異常。アンカー杭の抜け。 ・その他、造林地内へのシカ侵入の痕跡や樹木絡み、土砂の堆積・洗掘等。 ●補植等支援 獣害により苗木の食害等を受けた造林地に対して、補植又は忌避剤散布を実施する。 ○補助単価 ・補植：19,000円/100本あたり ・忌避剤散布：4,000円/100本あたり ○補植の本数の考え方 ・食害等により植栽密度が1,500本/ヘクタールを下回った場合に、当初の植栽密度又は2,000本/ヘクタールのいずれか低い密度に達するまでに必要な本数を補助の対象とする。
---	--	--

⑥		成果指標・達成状況	R3	R4	R5	R6	R7(9月末時点)
シカ防護柵点検管理 実施面積	目標値	-	-	-	160ha	135ha	
	R3~R6実績値 R7中間値	-	-	-	172ha	75ha	
補植等支援 実施面積	目標値	-	-	-	-	25ha	
	R3~R6実績値 R7中間値	-	-	-	-	3ha	

⑦		進捗状況・成果(9月末時点) ●シカ防護柵点検管理 9月末時点で、5事業体（5件）が当支援事業を活用し、計75haで事業を実施した。 ●補植等支援 9月末時点で、2事業体（3件）が当支援事業を活用し、計3haで事業を実施した。
---	--	--

⑧		下半期又は次年度に向けた課題・課題に対する対応方針 〈下半期〉 今年度から新たに実施している補植等支援について、年度内の完了が見込めない等の理由で取下げとなった案件が複数あった。その一方で、想定以上の食害が確認された等の理由により、新規追加ができないかとの相談が9月以降に複数件寄せられている。これら新規事業等について、予算の範囲内で調整・採択を行い、目標値の達成を目指す。
---	--	--

⑧		森林環境保全基金運営委員会からの意見(下半期又は次年度の事業の進め方など) ・現場でのシカ対策の労力は困難を極める。一過性の対策ではなく、継続的な支援が必要なため、本事業には期待している。
---	--	--

森林環境税に関する座談会でいただいたご意見について

<実施状況>

開催日	開催場所	対象者	参加人数
R7.9.3	四万十高校	生徒（3年生）	14名
R7.9.9	高知農業高校	生徒（2年生）	17名
R7.10.22	森林研修センター情報交流館	情報交流館ネットワーク構成団体（森林ボランティア団体）	16名
R7.11.4	須崎市森林組合	須崎地区森林組合技術員及び職員	50名（予定）



<高校生からの主なご意見>

森林環境税の認知度向上の方法

- ・SNSやYouTubeを活用したPR
- ・アニメとのコラボによるPR
- ・森林に関するイベントの開催
- ・学校における税の出前授業
- ・学校で手紙（チラシ）を配布
- ・税の活用事業を体験する
- ・県産材のノベルティを配布する
- ・市町村の広報誌への掲載
- ・公共的な場所に県産材で作った製品を設置
- ・おもちゃ図書館のような場所を増やす
- ・名称の変更（難しいイメージなので、簡単に）

森林環境税を活用してやってみたいこと、やりたいこと

- ・チェーンソー体験
- ・植樹体験
- ・木工体験
- ・木工品の製作
（机、本棚、ベンチ、お箸、まな板、スマホケースなど）
- ・公共的な場所に設置する木製品を自分たちで作ってみる
- ・木の香りがするアロマ作り
- ・イベントの開催（イオンモール高知や中央公園などで実施）
- ・狩猟体験
- ・ジビエ料理作り
- ・植物採取
- ・フィールドワーク

<ボランティア団体からの主なご意見>

等
ボ
ラン
ティ
ア
活
動
に
お
け
る
課
題

人材や資金に関すること

- ・高齢化による人材不足、後継者不足
- ・森林整備ができる技術者不足
- ・活動時間が確保できない
- ・活動資金が不足

森林環境学習に関すること

- ・情報交流館の活用が特定の学校に偏っている
- ・子どもが自然に触れ合う機会の減少（木の名前を知らない）

木材利用に関すること

- ・木材製品がプラスチック製品に置き換わり、木の文化が薄れている
- ・安価な外材が多く使われ、国産材が活用されていない
- ・個人で木材製品を作っても流通させる仕組みがない

森林整備に関すること

- ・野焼きの禁止により、伐採した木が処分できず、里山整備の障害になっている
- ・森林の手入れ不足により、下草や山草が失われ、生態系が変化
- ・鳥獣被害の増加

税の認知度に関すること

- ・森林環境税が十分に認知されていない

税
課
の
活
用
解
決
に
向
け
た
ア
イ
デ
ア

- ・財源を「次世代の育成」に集中させるべき
- ・「山の日」のイベントなどについて、その全体像やビジョンを明確にPRし、広く参加を呼びかけ
- ・「こうち山の日推進事業費補助金」の補助限度額（現状25万円）の増額

- ・情報交流館においてより多くの学校と連携し、森林環境学習を実施
- ・「木育インストラクター」を増やし、木に親しむ文化を広げる

- ・プラスチック製品から木製品への転換を促すための補助金の支出（例：木製ストローの導入など）

- ・里山の整備に関する補助金の増
- ・里山の重要性に関して普及啓発を実施
（普及啓発の内容としては、若者や子ども向けに「五感を刺激する」遊びの要素を取り入れた体験プログラムを企画）

- ・森林環境税で実施可能なプログラムを一覧化し、県民が利用しやすい形で提示
- ・木工キット等に税を活用していることを表示